

学生たちの「学び方」を 決める中高教育



糸川麻里生

私のように英語以外の外国語を大学で教える人間にとって（私の場合はドイツ語）、新入生たちが高校でどのような英語の授業を受けてきたかは、初級語学の授業を計画する際に非常に重視すべき前提となる。

学生たちはたしかに入学試験で一定の点数を取って入学してくるわけだが、入学試験の点数では、学生たちがどのような授業を受けてきたかまでは分からない。私が現在勤務する慶應義塾大学文学部では、入学後に英語のプレイスメント・テストを行なって、習熟度別の英語クラスを編成しているが、このプレイスメント・テストでも、学生たちの現時点での英語力（の一部）が分かるだけだ。

入試で学生を選抜する際には、主としてその時点での学力を基準にするしかないが、いざ入学してもらってからは、「学力」よりも「学習能力」およびその「傾向」を強く意識することになる。まして、現実には初めて学び始めることになる第二外国語の場合は、なおさらだ。「文法」を中心に教えた方が習得してもらいやすいのか、それとも「リスニング」や「オーラル」主体の授業に慣れた学生たちなのか。授業のやり方で、学生たちの語学力にはずいぶん差が出てきてしまう。大きく「失敗」すると、学年度末にはたくさんの学生に落第点をつけなければならなくなる。

初級語学の講座を担当している同僚たちと話していると、大体2～3年の周期で学生たちの「外国語習得」のあり方が変わっている、という意見で一致することが多い。出身地や出身校によっても、もちろんかなりの違いがあるし、理系学部は文法に強く、文科系学部（とりわけ女子の多い学部）はオーラルに強いというような傾向もあるのだが、そのほかに「学年全

体」の傾向というのがあるようだ。文部科学省の学習指導要領が変更されたことももちろん理由のひとつだろうし、そもそも社会が「語学力」に求めるものが変わってきていることも重要な背景だろう。また、教室の雰囲気の影響というものも看過できないようだ。

2007年度の傾向の一つとしては、「丸暗記が苦手」というのがあった。今までは、落第点を取りそうな学生には、試験前に「ここからここまでのページの動詞の変化表を丸暗記してくれば、たぶん落第点にはならないよ」とでも言えば、その部分だけは8割以上のできばえを示してくれたものだ。しかし、今年はたった2ページの表がほとんど覚えられない学生が続出した。

外国語教育法を専門にしている同僚に、このことを相談したところ、「オーラル主体の授業で勉強してきた学生に、“変化表の丸暗記”なんて求めたって、駄目に決まってますよ。彼らにとっては苦痛なだけで、まったく身につけません」と叱られた。結局、「変化表の暗記」はあきらめ、いくつかの「文」を覚えることを「落第回避策」に切り替えたら、かなりの学生を救うことができた。

もちろん、「落第候補生」ばかりではない。クラスでトップクラスの成績をおさめる学生たちもまた、我々が彼らに合った指導法を早期に見つけられないことには、本来到達できるはずの能力まで達することができなことも多い。

今年も新年度が始まった。もうすぐ出会うことのできる新入生たちとは、どんな勉強をしてゆけばいいのだろうか。学生たちの「学び」のかたちを、中学、高校の先生方と話し合う機会をもっと持ちたいと思う。

（くめかわ まりお・慶應義塾大学教授）

Genius English Course I,II Revised

速読力を養うリーディング指導



萩野俊哉

速読はどのような言語でも、日常生活のさまざまな場面でごく自然に行なわれるリーディング活動です。新聞や雑誌、軽い小説やエッセーや広告文、あるいはインターネットを使った情報検索など、実際に私たちは毎日たくさんの速読を行なっています。一方、大学入試に目を転ずると、英語長文問題における語数は近年ますます増加する傾向にありますし、従来から英文速読力を重視してきた大学入試センター試験には、さらに今年、新傾向の第5問のような問題が登場しました。

このように、英文の速読力の養成は当然行なわれなければならないことであり、また、最近ますますその重要度を増していると考えられます。

それでは、具体的にどのように生徒に速読力を身につけさせることができるのでしょうか。教科書 *Genius* シリーズの著者のひとりとして、この教科書の特長を生かして行なうことができる点も含めながら、以下で解説しましょう。

■速読指導の基礎

(1) 学習方法を見直させる。

英語の勉強とは、教科書のすべての英文の一語一句を日本語に訳し、訳した英文をノートに書き留めていくという作業であると考えている生徒が多くいます。予習の段階でわからない単語や表現があると、その都度辞書を引き、何となく当てはまりそうな意味を抜き出して、ぶつ切りの日本語をパズルのように組み立てながらひとつの日本語の訳文を作り上げていく。

このような学習方法ははたして効率的と言えるでしょうか。そして、英文速読力養成に寄与すると言えるでしょうか。

(2) 単語力と文法力を身につけさせる。

速読力を高めるための工夫やテクニックはいくつかありますが、それでもやはり何と言っても語彙と文法の面でしっかりとした基礎ができていなければ十分な効果は望めません。

教科書 *Genius* のシリーズは、中学校の教科書の中で用いられる単語を分析し、また、実際に中学校で長年教鞭をとる教師の指導経験に基づいて、語彙の面で無理や無駄のないスタートを心がけました。また、課を追うごとに徐々にレベルを上げて、大学入試にも対応できる語彙まで上げていくという、単語の面でのきめ細やかな配置や配列を考えて編集しました。文法についても、中学の復習から入り、本文に関連させながら、実際に英語を使う際にも効果的な文法練習問題をふんだんに盛り込みました。

速読力養成の基礎となる単語力と文法力を生徒にきちんと身につけさせようとする姿勢は、この教科書の「背骨」として常に保たれています。

■速読指導のテクニック

「速読」とは何か。それは言い換えれば、skimming あるいは scanning という読み方で、すばやく文章を読み取るということです。前者は読んでいるものの要点を知るためにさっと目を通す読み方であり、後者は必要な情報のみを探して読む読み方を意味しています。したがって、速読

の力を養うということは、すなわち、この skimming と scanning の力をつけるということに他なりません。それでは、どのようにしたらこれら 2 つの読み方が身につくのでしょうか。その効率的かつ効果的な手法を以下でいくつか紹介しましょう。

(1) ねらいや目的を持って読ませる。

生徒に「読む」動機付けをすることは重要です。たとえば、「何が書かれてあるのかを知りたい」というのは、skimming をするひとつのねらいや目的と言えましょう。教科書 *Genius* では本文に入る前に Listening や簡単なペアでの英会話を通して、この「何が書かれているんだろう」という生徒の気持ちをかきたてます。また、教科書の図表やイラストやさまざまな資料等を使って生徒がそのような気持ちになるように仕向けることもひとつの方法でしょう。そして、日々の具体的かつ有効な訓練としては、本文の内容に関する質問 (signpost questions) があらかじめ与えられて、その答えを探るべく本文を読むということが考えられます。教科書 *Genius* では、本文を構成する各セクションの最初に “Points in Reading” と題して、skimming や scanning のための問いを英語で用意しました。その問いに対する答えを見つけるというねらいを持って、生徒は該当のセクションの本文を読むことになります。

(2) 時間を制限して読ませる。

速読の力を養成するわけですから、制限時間を設けて速く読む訓練をさせることが必要です。参考までに、1 分間で読める単語数 WPM (Words Per Minute) で計測した場合、ノンネイティブの初級学習者としての平均的な数値は 70~150 WPM。英語のネイティブの平均的な数値は 250~500 WPM 前後とされています。最初は無理せず、しかし、徐々に負荷をかけてトレーニングをさせましょう。

(3) Chunk で英文を頭から順に読ませる (「返り読み」をさせない)。

次の英文を例に取りましょう。

The only woman that I can love from the bottom of my heart is Keiko.

これを、いわゆる「返り読み」をして、関係代名詞の that 以下から先に意味を取ろうとするようでは速読はできません。意味のまとまり、すなわち chunk に着目して、文を頭から順に読んで理解する練習を積みなければなりません。上の例であれば、The only woman/ that I can love/ from the bottom of my heart/ is Keiko. というふうにはスラッシュ (/) で区切った chunk を認識し、英文を左から右へそのまま素直に読みながら、chunk ごとの意味をつなげて英文全体を理解するという訓練が必要です。

紙幅の関係で詳しく説明はできませんが、これら 3 つの方法の他に次の 6 つの点にも注意して読ませると、速読力アップのために役立ちます。①筆者が次に何を言おうとしているか予測しながら読ませる。②重要な点とそうでない点を分けながら読ませる。③いわゆる「つなぎの副詞」や接続詞などの discourse markers に注意して読ませる。④分からない単語は文脈やその形から意味を推測させる。⑤自分の求める情報が書かれてある箇所にマークをしながら読ませる。⑥「筆者は何が言いたいのか」や「何の目的で書いたのか」ということを考えながら読ませる。

* * *

速読力養成のために、最後にもうひとつ重要なことがあります。それは「読解のための背景知識や経験 (schema)」を十分に身につける、ということです。馴染みのあるテーマやトピックに関して書かれた文章というのは、素早く読めるものです。その意味でも、日々のあらゆる教科のあらゆる授業がとても大切だということです。そして、できるだけいろんな本をたくさん読むこと。いろんな人のいろんな話を聞くこと。生徒にはこのようなことにも心がけさせたいものです。

(はぎの しゅんや・新潟県立新潟向陽高等学校)

Genius English Course I,II Revised

完了形の指導について



竹内正宏

■英作文の指導から

毎年、センター試験が終了すると、大学の個別試験に向けた3年生の英作文指導が本格化します。「完璧な」英作文は（筆者自身がそれを示せるレベルでもありませんので）当然最初から期待はしていませんが、できるだけ「赤」を入れる手間を省こうと、毎年次のような指示を行ってから始めています。

(1) わかりにくい〔訳しにくい、長い〕日本語は、自分なりの英訳可能な日本語に説明的に分断（いわゆる「和文和訳」）してから書き始めること。その際、日本語の句読点を、英語のカンマやピリオドに一致させる必要は普通はないこと。

(2) 次の構造を多用しない（できれば用いない）こと。

- ・過去完了形（英語力の高い生徒の作文によく見られます。）
- ・受動態（自由英作文時の元原稿や、問題文の日本語にこの構造が多用されています。）
- ・I think ...（無用の場合がほとんどです。）

(3) 逆に次の構造・語をうまく使うこと。

- ・現在完了形（「なる、いる」表現の多い日本語では利用頻度は比較的高くなります。）
- ・some, someone, something など（上記同様、非明示的な表現の多い日本語に対し用います。）

(4) ケアレス・ミスティブの類に注意すること。

- ・If, It など、使用場所を無視したIの大文字使用など。

■完了形の習得が未完了？

前置きが長くなってしまいましたが、入試の英作文は、高校の英語学習の最後のアウトプットとも言え、その中で特徴的に見られる誤りに関わる文法事項は、早期から繰り返し指導しておく必要があると言えます。

日本語が伝えている内容を正確に消化するというハードルが高いせいなのかもしれませんが、ここでは敢えて、多々ある誤りの中で、完了形や進行形といったアスペクト（相）に関わる事項が特に未定着であると考え、その指導の工夫を考えてみたいと思います。

■Genius I Revised, Lesson 3 から

最初の例は、適切な時制と相の組み合わせを個々の動詞に当てはめて、筆者が伝えようとしているニュアンスの違いを感じ取らせるものです。TASK: 文章全体の流れに注意して、下の表を参照しながら、（ ）内の語を適切な形にしなさい。三単現の-sの必要の有無も考えること。

表：動詞の表現形態（主語をyou, 動詞をwaitとして）

You	現在時制	過去時制
単純形	wait	waited
進行形	are waiting	were waiting
完了形	have waited	had waited
完了進行形	have been waiting	had been waiting

In the evening, Finda returns home along the same long road. She ①(say) that the branches along the way “look like witches’ hands” and make her afraid. She ②(be) always happy to see the first of the village huts. She ③(see) her father, and he ④(come) to meet her with a light. As usual, he ⑤(wait) at the edge of the village for her to arrive.

Her father, Papa Tolno, is a proud man. Now he ⑥(be) a rice farmer. When he ⑦(be) young, he ⑧(fight) in the Algerian War and ⑨(have) many experiences. He ⑩(live) in a village with no schools. He ⑪(want) to study, but never ⑫(have) the chance. He ⑬(want) Finda to do better. He often ⑭(say) that education is a passport to discovery. If she does not study, he says, she will spend her life like a “wounded panther.”

以下が教科書の表記です。

① says ② is ③ sees ④ comes ⑤ has been waiting
⑥ is ⑦ was ⑧ fought ⑨ had ⑩ had been living
⑪ had wanted ⑫ had ⑬ wants ⑭ says

いかがでしょうか。⑤, ⑩, ⑪が必ずしも完了(進行)形である必要はありませんね。しかし、表記のようにすることで、(例えば⑩により、「当時の居住地が一時的であった」といったような)微妙な意味の差異を伝えることができる、ということを生徒に説明できます。反対に、前述の英作文に関わる指導のように、そこまでのニュアンスを伝える必要がないのであれば、完了(進行)形を用いる必要もないという、反面的指導も可能です。う。(むしろこちらの方が効果的でしょうか。)

■ *Genius II Revised*, Lesson 9 から

次の例は、「助動詞+完了形」に関するものです。
TASK: 文章全体の流れに注意して、() 内の語を適切な形にしない。

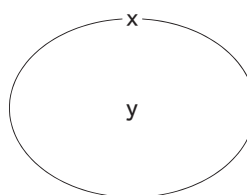
In Africa, when giraffes or other large animals eat acacia trees, the newly eaten leaves send out an SOS to the rest of the trees. Within 30 minutes, levels of tannin, a bitter-tasting chemical in the leaves, may ①(double). To avoid being poisoned, the animal has to move away. But it can't ②(eat) nearby acacias because their leaves will ③(receive) a wind-borne message and they will ④(increase) the amount of their tannin to poisonous levels too.

以下が教科書の表記です。

① have doubled ② eat ③ have received
④ have increased

ここでは、①については、文中の Within 30 minutes が、③, ④については、it can't eat が、「タンニンレベルの倍増」、「メッセージの受信」、「有毒レベルまでのタンニン量の増加」の完了を要求しているため、それぞれに完了形を用いる方が適切である、というような説明が可能です。

■ 新感覚の完了イメージ



『英語感覚が身につく実践的指導—コアとチャプクの活用』(pp. 86-91) には、x have y. について左のようなイメージ

が示されています。I have talked to him. のような現在完了形の文でも基本は同じで、y が talked to him などの「すでに行われた事柄」になるだけで、それを「今持っている (= 経験している)」と考える、と説明しています。従来の「完了・結果」、「経験」、「継続」という分類に基づいた説明では理解しにくかった学習者にとってはわかりやすい説明ではないかと思います。この「感覚」を過去完了や未来完了にも適用できれば、完了形の習得もずいぶん楽しくなるかもしれません。

(たけうち まさひろ・新潟県立新潟南高等学校教諭)

Captain English Course I,II Revised

動機の乏しい生徒の文法指導

平原麻子



英語の授業で生徒にもっとも不人気なもの、といえば文法ではないか。それはなぜだろう。

ひたすらルールを説明し練習問題を解く、といった一般によく行われている教授法に問題があることは確かだ。その結果、生徒の中に「いくら文法を勉強しても英語が使えるようにはならない」という意識が生まれる。そして、その意識はある意味正しい。

言語知識をただ注入しても、それだけでは言語使用にはつながらない。文法は覚えることが目的ではなく、その知識を活用しながら英語を理解し産出するためにある、という前提をまず確認しておきたい。本稿では、英語嫌いな生徒のための文法指導のあり方を考える。

■「日本語と英語は違う」ことを意識させる

- * 英語は主語を要求する。
- * 主語の次には動詞がくる。
- * 動詞は時制を意識する。
- * 時制には色々な種類がある。

英語が苦手な生徒は、そもそもこういった英語

の特徴を理解していない場合が多い。日本語と英語は相当距離のある言語同士なので、これはしかたがない。敷居が高いのである。まず、明示的に日英語の違いを意識させることから始めよう。

教科書 *Captain English Course* シリーズでは「文法のまとめ」ページを設け、文法事項が目で見えて理解しやすいような工夫を色々ほどこしてある。たとえば *Captain English Course I Revised* の「文法のまとめ①」(pp. 28-29)を開くと、英語は必ず主語と動詞を必要とし、またその語順も決まっている、ということが視覚的に分かるよう図解してある。疑問文や否定文の作り方も図で示している。(下図参照)

最初是这样いったチャートを活用し、パーツごとに単語を入れ替えて音読させ、何も見なくても英文が口をついて出てくるまで練習させよう。

■機械的ドリルを身近なものに

とはいっても、機械的な入れ替え練習を喜んでやる生徒などいない。英語を話してみよう、という気持ちを少しでも引き出すためには、言わせる内容は生徒の実態に即したものでありたい。

文法のまとめ ①
Lesson 1~3

1 文のしくみ
文は主語と述部からできています。主部の中心となる語が主語で、述部の中心は動詞です。

主語 (私たちはそれぞれ)	述部 (オンラインです)
Each of us	is only one.

2 語順
英語は、主語 + 動詞 + その他の語句 の語順で文を組み立てるのが基本です。

主語	動詞	その他の語句
----	----	--------

質問するとき手を上にあげるように、疑問文ではbe動詞を主語の前に出す。

4 疑問文と否定文
[A] be動詞の疑問文は主語と動詞の位置を入れかえ、否定文では動詞の後ろに not をつけます。

疑問文	He is a student.
疑問文	Is he a student?
否定文	He is not a student.

[B] 一般動詞の疑問文は主語の前に Do または Does をつけ、否定文では動詞の前に do not [don't] または does not [doesn't] をつけます。

疑問文	You like cats.	She likes cats.
疑問文	Do you like cats?	Does she like cats?

Captain English Course I Revised pp. 28-29

ここは生徒の動向にアンテナをはり、彼らが表現したいことにつながるような名詞・動詞・形容詞・副詞を集めておこう。日頃から気軽に生徒と話をし、彼らの生活を知っている教員はこういうときに強い。

こうして集めた単語は品詞ごとに整理して（＝英文を作る時どの位置に現れるかを意識させる）リストに仕立て、年度始めの授業で配布しておく。失くしやすいのでノートに張って、自分専用の語彙ノートを作らせてもよい。自分が使いたい単語をどんどん加えられるようにすると励みになるだろう。このリストを文型練習に活用する。

自分に必要な単語は何度も使っているうちに自然と身についていくものだ。

■本物を使う

教科書の例文はどうしても「作り物の」「死んだ」英語という印象を免れない。時には教科書から離れ、雑誌・広告・漫画・映画・洋楽など生徒に親しみのあるものから例文を探してこよう。教員自身の趣味を活かしながら教材集めをするのは楽しいものである。

たとえば『ドラえもん』を始め相当数の日本の漫画が英訳されている。まさに例文の宝庫である。『少年ジャンプ』の英語版などというものもあり、これを同僚から1冊借りて授業で使ってみたところ、日頃やる気のない生徒たちまでも大変な興奮ぶり、今までにない集中力で授業に取り組んでいた。ある生徒はその後確実に英語の勉強に目覚め、質問もよくするようになり、1年後にはしっかりした英文が作れるようになっていった。

映画やドラマも生徒の興味をひく格好の教材になる。最近は数多くのシナリオが市販され、DVDには英語字幕まで入っていることが多く、教材研究の助けになってくれるのはありがたい。筆者も色々試してみたが、*Back to the Future* などが英語のレベルも易しく、生徒をひきつける物語の作り方でお奨めできる。

映画の授業ではリスニングから入り、何を伝え

たいのか考えさせ、次に日本語字幕でどう訳されているのか確認する。仕上げは音読練習から役になりきった発表活動につなげていく。

洋楽ならばビートルズやカーペンターズが、シンプルながら深みのある歌詞と美しく歌いやすいメロディーで、何年たってもやはりお奨めだ。生徒の受けもよい。最近では日本のヒット曲の英語バージョンなども登場するようになり、授業で使える英語の歌のレパートリーがさらに広がってきた。*Captain English Course II Revised* には、ユーミンの名曲『守ってあげたい』が英語バージョンで収録されていて、時制の確認・接触節・不定詞・仮定法といった文法事項の確認に利用することができる。ひとつおりの歌詞の内容を勉強したあとは、クラス全員で歌って楽しもう。

You Don't Have to Worry

You don't have to worry, worry.

I'll always be here close to you.

I'll take away your pain and sorrow.

There's nothing I wouldn't do for you.

(以下省略)

こんなのはただのお遊びではないか、これで生徒に力をつけることができるのか、という声もあるだろう。しかし、限られた時間数の授業内でどれだけのことができるだろうか。生徒が力をつけるのは「自ら学ぶ姿勢」を持っている時だけである。教師の仕事は「教え込む」ことではなく、生徒に勉強するきっかけを与えること、勉強は楽しいと思わせること、もっと勉強したいという意欲を植え付けること、と割り切って授業に臨むほうが、はるかに実りのある授業ができるだろう。

* * *

冒頭でも述べたように、文法の勉強は自ら英語を産出できるようになるための手助けである。問題集を解くため、試験に合格するための単なる修行的時間に陥ってしまわないよう、生徒の立場にたって授業のプロセスを構築したい。

(ひらはら あさこ・筑波大学附属駒場中・高等学校)

Captain English Course I,II Revised

「異文化理解」が授業を変える



海木幸登

■英語の楽しみ、英語の魅力

あらためて言うまでもないことだが、私たち英語教師は、英語学習にはいろんな楽しみがあることを知っている。英会話やコミュニケーションはもちろん、英語の歌や映画が好きな人もいれば、教科書の音読や翻訳、あるいは英語の物語を読むのが楽しいという人もいる。

まことに人それぞれだ。

私の場合、初めて外国の人と英語で話したのは中学3年生の時だった。友だちと遊びに行った海岸で観光客らしき人に話しかけたのだが、あの時の「(自分がいま習っている)英語が通じた!」という驚きとうれしさは忘れることができない。

また、『サウンド・オブ・ミュージック』や『ローマの休日』などを見て、初めて映画のセリフがいくつか聞き取れた時も感激だった。

英語の歌も同様で、『ドレミの歌』や『ロミオとジュリエット』、あるいはカーペンターズやビートルズなど、けっこう歌詞の内容が分かってうれしかったものだ。メロディーに合わせて、お気に入りの歌を何度も歌ったことを覚えている。

■異文化が高める生徒の意欲

ところで、生徒たちには、「世界の旅」「世界の祭」「世界の食事」など、異文化理解に関するものも人気がある。誰でも外国へ行けるような時代になったこともあり、世界の国々がますます身近な存在になっているのかもしれない。

Captain では、“It’s Yummy!” (I, 第3課) でメキシコのタコスを取り上げ、“Seven Wonders Around the World” (II, Have a Break!

2) で世界遺産を取り上げている。また、“The World Is Full of Wonders” (II, 第4課) は、氷のホテル (スウェーデン)、青く光る神秘的な湖 (プエルトリコ)、キリン保護区の中にあるホテル (ケニア) など、ちょっとユニークな視点から世界に広がる異文化を紹介しているので、生徒には魅力的だろう。

教材そのものが魅力的なので、肩の力を抜いて教科書通りに進めていくだけでも十分楽しい。

しかし時間がとれるようなら、『世界の食卓—世界24カ国の家族のごはん』『地球家族—世界30カ国のふつうの暮らし』『続地球家族—世界20カ国の女性の暮らし』(TOTO 出版) などの写真を使って、話題を広げてみるのはどうだろうか。

たとえば『世界の食卓』には、1週間分の食料を前に家族全員が写っている写真が載っているし、『地球家族』には、外へ運び出した家具といっしょに、これも家族全員が写っている。

使い方のヒントはそれぞれの書籍に任せるとして、ここから生徒が何を感じるかは実際にやってみてのお楽しみだ。社会的な内容でもあり、教科にこだわらず、図書館に置く価値はある。

また、*Student Times* や *Asahi Weekly* など週刊英字新聞にはたいいてい Travel のコーナーがあり、世界の国々の今が紹介されている。

数週間分集めれば、ALT に簡単な英語の説明をつけてもらって、教室に貼りめぐらすといい。

ちょっとした工夫で、教室が地球村に早変わりすることになる。

また、*Joyful Watching* や *Welcome to My*

Country! (浜島書店) など、世界の異文化や世界の国々を取り上げた読物が各社から出ているので、*Captain* とあわせて利用する手もある。

■世界の旅に出かけよう！

さて、せっかくの“世界の旅”なので、写真や新聞記事だけではなく、思い切ってもっと時間をとるのもいい。*Captain II Revised* の Communication 2「旅に出よう」とからめれば実行しやすいだろう。

たとえば私の場合、パスポート申請用紙（本物）をもらってきて必要枚数印刷し、実際に書き込むという授業をやったことがある。

それだけでなく、パスポートも、ちょっと厚めの紙に印刷して作ってしまう。そして、ALT に空港の係員役をやってもらい、出入国の会話などを練習する。うまく会話が進めば、パスポートにスタンプを押すと海外旅行の雰囲気が出る。

また、グループごとにお薦めツアーのプランをつくるという活動も盛り上がった。生徒は旅行会社へ足を運び、チラシやパンフレット、ポスターなど、使えそうな資料をもらってくる。

これがなかなか楽しいのだ。

そして、模造紙や発泡スチロールなどのボードに資料を切り貼りして、プレゼン用の資料を作る。これを使って自分たちのプランを説明するのだが、どの程度、どの部分を英語にするかは、生徒の実態や使える時間による。

ポスター・セッションの形式で、体育館などで一斉に実施するともっと面白くなる。2 クラス同時展開にして、1 クラスはプレゼン、もう1 クラスはお客さんになるという形式にすると、とても楽しいダイナミックな実践になるのである。

いずれも私自身がすでに実践したもので、かなり手ごたえのあった活動である。*Captain* には、ハワイ、カンボジア、タイなど、他にもいろいろな国々が登場するので、題材にはことかかない。

■英語で歌おう、J-pop！一言葉と文化ー

もう1 つ取り上げておきたいのは、『世界に一

つだけの花』や『守ってあげたい』など、日本の歌を英語にした教材である。*Not No.1 but the Only One* (I, 第1 課) と *One of a Kind* (I, Have a Break! 1) が前者で、*You Don't Have to Worry* (II, Have a Break! 1) が後者だ。

生徒は本当に英語の歌が好きだが、日本語の歌を英語で歌うのも、意外性があるとなかなか楽しいものだ。歌いなれた歌詞がどんな英語に姿を変えているのか、ちょっと好奇心を刺激され、英語の歌とはまた違った緊張感もある。

『英語教育』の増刊号(2007年10月)の特集は「声に出して読みたい英語」だが、ここには『翼をください』が紹介されている。『翼をください』や『世界に一つだけの花』など、日本の若者なら誰でも知っているような歌は、国際交流の場などで披露するにはピッタリだ。

簡単に歌唱指導をするだけですぐに参加者みんなで歌えるので、生徒にとっては、英語学習で手に入れた財産の1 つになるはずだ。

また、最後に自分の好きな歌(の一節)を英訳して一枚文集などにまとめると、優れた自己表現活動になる。その歌が好きな理由も日本語で書いておいて授業で読みあうと、相互理解につながる価値ある作品集ができるのである。

ただし、教科書をキチンと、自信をもって読めるようにするための発音指導や音読指導自体が、異文化理解だということも忘れないでおきたい。

英語の音こそが最初に出会う異文化なのであり、自分に自信が持てるということもまた、国際理解の重要な要素なのである。

阿久悠という作詞家が、「情熱」という言葉を分解して次のように書いている―「情は人を理解したいと思うやさしさであり、熱は自分の気持ちを相手に伝えたいと思う誠意である」

まさにコミュニケーションや異文化理解の本質を言い当てた言葉だという気がする。

(かいき ゆきと・富山県立呉羽高等学校)

Departure OC I Revised Edition

しくみがわかれば聞き取れる



朝尾幸次郎

昭和の始め頃の横浜の波止場。埠頭にはアメリカの貨物船が停泊している。岸壁ではアメリカ人船員がクレーンで降ろされようとしている大きな積み荷を指さし、大声で指示を与えている。積み荷の下には荷下ろしを行う日本人沖仲仕^{おきなかし}が待ちかまえている。そのひとりが感心したように言った。

「見ねえ。このアメリカ人、なかなかのやつだぜ。日本語ができる。それも下町ことばだ。《でっけえ、でっけえ》って言ってるぜ」

■文になると聞き取れない

アメリカ人船員が声を張り上げて言っていたのは“Take care! Take care!”(気をつけろ)だった。この話には英語のじょうずな発音、リスニングの秘訣が隠されている。吹き替えなしのアメリカ映画を見て、英語が聞き取れず愕然とした経験のある方は私だけではないだろう。後で、映画の SCRIPT を手に入れて読んでみると、聞き取れなかった英語は実は知っている単語ばかりだったことがわかってもう一度、愕然とする。私たちが耳にする英語は単語でなく、単語が連続する文だ。句や文になるとそこに音変化が生じ、単語単独での音のイメージとは異なったものとなる。この音変化こそ、発音、リスニングの決め手である。

長くアメリカで生活し、高校生のとき日本に戻ってきた生徒が日本語で苦労した体験を話してくれた。家では日本語を使っていたので、話したり、聞いたりすることに不自由はない。漢字も知っている。しかし、日本語を読もうとするとつまずいてしまう。それは「事業再生計画案」や「木造校

舎再利用計画」のように漢字が連続する表現だ。どこに切れ目があるのかわからないのだという。私たちが映画の英語を聞いて聞き取れないのはこれによく似ている。単語の切れ目がわからない。

タレントのタモリは上京するまで福岡にいて、当時、FEN とよばれていた駐留米軍放送をよく聞いていたそうだ。FEN でいち早く流されるアメリカの最新ポップスを聞くためだ。曲が流れる前後で番組の司会者が「引っ張れー」と言っている。この「引っ張れー」とはいったい何のことか、長い間、疑問に思っていたそうだ。それがわかったのはずいぶん後になってからのことで、それは“Hit parade”(ヒット・パレード)だった。

■フレーズと文で練習する

映画 *Titanic* に次のような場面がある。望まぬ結婚を控えたローズが船尾の手すりを越えて海に飛び込もうとするのをジャックが止める。そのときのローズのことばである。

Stay where you are. I mean it. I'll let go.

(来ないで。本気よ。手を離すわよ)

単語はやさしいのに英語を聞くととまどう。

リスニング、発音を練習する場合には単語でなく、フレーズや文で練習するのが効果的だ。上の例では mean it と let go をまとめて練習するとよい。フレーズや文で練習すると、単語として理解している音がどのように変化するかがわかる。

単語の音が音連続のなかでどう変化するかを実感するにはカタカナで表記してみせるのも効果的だ。生徒に次のように聞いてみる。「これは英語

の発音を聞いたとおりに日本語で書き表したものです。それぞれなんという英語でしょうか」

ペケタブ / テナクラク / ナタトー

(答えはこの記事の最後をどうぞご覧ください)

■「しっかり聞こう」は効果がない

私たち日本人に苦手な英語の音があるように、日本語を学ぶ外国人にも苦手とする音がある。「つまる音」とよばれる「促音」がその例だ。外国人にとっては次の単語は聞き分けるのがむずかしい。

せけん (世間) せっけん (石けん)

まち (町) マッチ

また、伸ばす音も外国人は苦手だ。

おじさん おじいさん

スーパー スパ (温泉)

これを練習するのに「しっかり聞きましょう」と励ましても効果は少ない。「せっけん」では2拍目は音がそもそも消えているのだから聞き取りようがない。私たちも「っ」だけを単独で取り出して発音することはできない。促音も長音も日本語の拍というリズムのなかで意味をもつからだ。日本語のしくみを理解しなければ聞き取れない。英語も同じで、“Hit parade”を聞き取るためには、破裂音と破裂音が連続する環境では hit の語尾子音 [t] は破裂しないことを知っておかなければならない。

■しくみを理解すると効果的

英語の発話で元来の単語の発音が変化するものに機能語の弱形がある。代名詞 his は発話のなかでは [h] の音が落ち、弱い音になることが多い。このような音変化も聞き取りがむずかしい。

弱形の聞き取りについて効果的な練習法を調べるのに次のような実験をしたことがある。教える時間はどれも同じにして、3つのクラスでそれぞれ次のような違った教え方をしてみた。

A クラス 説明はせず、テープを繰り返し聞かせる。

B クラス テープは聞かせず、弱形では音の形が変わることを説明する。

C クラス 弱形では音の形が変わることを説明し、同時にテープを聞かせる。

その後、弱形を含む英語の文を使い、同じ書き取りテストを行って成績を比べてみた。すると、成績の伸びがみられたのは B と C のクラスであった。なかでも、弱形の解説をしてテープで音声を聞かせた C クラスの伸びは大きかった。

とりわけ私が興味深く思ったのは B クラスである。このクラスでは音声は聞かせなかった。文のなかでは代名詞や助動詞などは弱い音になり、[h] などが落ちて音の形も変わるということを日本語で説明しただけだ。なのに、音声をひたすら聞かせた A クラスよりずっと好成績だった。音声を聞く練習をせずに聞き取りの成績をぐんと上げることができたのだ。

大学生のとき、音声学の授業で king などの語尾子音 [ŋ] について学んでいたときのことだ。先生が次のようにおっしゃった。「最近の若い人は日本語で鼻濁音を使わなくなりましたね。朝尾君、君は鼻濁音と濁音のどちらを使いますか」私は答えることができなかった。自分がどの発音をしているかわからなかったのだ。その後、「考える」に出てくる音が鼻濁音だとわかり、繰り返し「考える」と発音してみることで、鼻濁音をはじめ意識することができた。音のしくみを知れば音を意識化でき、区別できるようになる。

* * *

Departure OC I Revised Edition にはレッスンごとに Pronunciation Skills という発音練習がついている。Teacher's Manual には音のしくみについてわかりやすい解説がある。どちらも教室での実践から生まれたものだ。CD を聞かせるとき、音のしくみについてひとこと説明を加えると生徒の聞き取りの力はぐんと伸びるだろう。

(答え: pick it up / ten o'clock / not at all)

(あさお こうじろう・立命館大学教授)

Departure OC I Revised Edition

センター試験リスニングテスト対策



小森清久

2008年度本試験では、単に発話内容を聴き取り理解するだけでなく、比較的長い選択肢を速く読み正確に理解する力も一層求められている。昨年度と比較すると以下ようになる。

	平均点	本文総語数	設問総語数	平均速度
07	32.47	1010 words	525 words	161 wpm*
08	29.45	1086 words	563 words	159 wpm

大問ごとの速度は一樣ではないが、全体的に音声は聞き取りやすい。対話文は問題別に複数のアメリカ人の男女によって読み上げられているようである。（*wpm: words per minute「毎分語数」）

日常生活や学生生活などをテーマとして扱った対話形式中心の出題である。選択肢の英文が長いものや、設問がよく練られているため最後まで集中して聴かないと誤答を招きやすい問題が散見される。以下、どんな問題で差がついたのかを設問別に分析し、大問別に網羅した対策とリスニング・ストラテジーに配慮した *Departure* を使った指導法を考えてみた。

■第1問 対話文イラスト選択問題 (146wpm)

問4 How much are the stamps?

① \$2.50 ② \$5.10 ③ \$17.50 ④ \$20.00

(スクリプト) W: Hi, I'd like five ten-cent stamps and two one-dollar stamps, please.

M: All right. Anything else?

W: No, but I only have a twenty-dollar bill.

M: No problem.

分析 問4「切手の値段」がテーマ。数字の聴き取りと計算がポイント。平均正答率約20%と推測。女性の最初の発話にある... I'd like five ten-cent stamps and two one-dollar stamps, please.

の箇所を正確に聴き取る。ここで、女性の最後の発話にある... but I only have a twenty-dollar bill. に、引きずられて④ \$20.00を選択しないこと。通例、but で話の流れが変わるので注意が必要だが、ここでは質問と無関係の情報であるので、この発話内容に引きずられないように注意する必要がある。④の誤答は下位レベルで20%程度あったと推測。一方で、女性の発話にある数字の聴き取りが正確にできなかったことによる③の誤答が全体平均約40%と推測。上位レベルほど「計算」をしようとした痕跡が伺えるが、下位レベルでは聞こえた数字で答える傾向が強いことを示している。(答①)

第1問型の対策 事前に質問文とイラスト・数字・文字などに目を通しておき、聴き取りのポイントを予測しておくこと。数字などの聴き取りは、メモを取った後で、計算するなど工夫をすることで対策できる。

指導のポイント *Departure* の Lesson7 How much is it? で生徒がペアとなり客と店員などのロールプレイを通して数字の聴き取りと計算の練習をさせる。第1問型はイラスト中心の問題なので、その練習には、「視覚ストラテジー」が有効。

■第2問 対話文応答完成問題 (171wpm)

問11 ① So, what have you learned to make so far?

② So, what should I make at the school tonight?

③ So, when are you going to start taking lessons?

④ So, why did you miss the lesson tonight?

(スクリプト) W: Oh, I almost forgot. I've got a cooking lesson tonight.

M: You're going to cooking school?

W: Yeah! It's really fun!

分析 「楽しい料理学校」がテーマ。平叙文の発話に対する応答を選ぶのがポイント。平均正答率約40%と推測。女性の最初の発話にある I've got a cooking lesson tonight. と女性の最後の発話にある Yeah! It's really fun! から適切な応答を選ぶ。事前に選択肢を分類すると、②、③は未来の内容、④は女性の最初の発話と矛盾することに気づく。選択肢が発話から聞こえてくる音を含んでいるので、引きずられないように注意する必要がある。女性の最初の発話にある a cooking lesson につられて、選択肢③の誤答が下位レベルで50%と推測。下位レベルほど、単に聞こえた言葉で応答していることがわかる。(答①)

第2問型の対策 文法・構文的なつながりより、内容的なつながりに重点を置くため、柔軟な応答力が求められる。特に、最後に聞こえてくる発話内容(平叙文、Yes/Noの疑問文、5W1Hの疑問文の3タイプ)に集中し、事前に質問文と選択肢に目を通しておき、聴き取りのポイントを予測しておくことが高得点につながる。

指導のポイント 第2問型練習は、*Departure* 「文脈ストラテジー」で内容を予測する力をつけさせる。

■第3問 A 対話文質問完成問題 (174wpm)

第3問A型の分析と対策 問14、問15は、事前に質問文と選択肢に目を通しておき、聴き取りのポイントを絞り込んでおけば、状況理解が比較的容易であると思われる。平均正答率は50%以上あったと推測できるが、下位レベルでは問15、問16の正答率が20%前後と推測。

指導のポイント 第3問A型の練習は、*Departure* の「スキニング」を用いて、必要な情報に集中して聴き取る力をつけさせる。

■第3問 B 会話文図表完成問題 (178wpm)

第3問B型の分析と対策 150語程度の対話を聴き、「集合写真」の中の3人の男女の位置を特定する問題。服装、持ち物、位置関係を表す語句に注意して聴くと解きやすい。読み上げ速度が第2

問型に比べ平均速度がさらに速くなっているが、平均正答率は比較的高く70%と推測。事前に質問内容をよく吟味し、的を絞って聴き取ると高得点につながる。

指導のポイント 第3問B型の練習は、*Departure* の「視覚ストラテジー」で時間の推移と場面の展開を捉える力をつけさせる。

■第4問 A 短文内容把握問題 (148wpm)

第4問A型の分析と対策 90~100語程度のモノローグの英文を聴き、質問に対する答えを選択する問題。日常生活に関連したテーマが多いので、状況は比較的理解しやすいが、情報を整理して聴かないと誤答を招きやすい。読み上げ平均速度は第2、3問型に比べゆっくりである。事前に質問と選択肢に目を通し、場面の状況を推測しておく。細部の聴き取りにとらわれ過ぎ、全体が理解できないことにならないように注意する。

指導のポイント 第4問A型の練習は *Departure* の「スキニング」を用いると、知りたい情報を聴き取る力をつけさせることができる。さらに、英語のニュースなどを用いて「スキニング」の練習をさせるのも一考。

■第4問 B 長文内容把握問題 (154wpm)

第4問B型の分析と対策 200語程度のモノローグの英文を聴き、質問に対する答えを選択する問題。今回は「お土産にもらった観賞用ハワイアン・レッド・シュリンプ」がテーマ。聴き取りの英文自体は平易で、内容にはストーリー性があり、おもしろい。読み上げ平均速度は昨年(150wpm)よりやや速い。事前に質問と選択肢に目を通し、内容を推測し、的を絞った聴き取りをする。普段の聴き取り練習では、読み上げられる英文を倍速で聴かせたり、聞こえてくる発話をほぼ同時に口頭で再生したりする練習(シャドーイング)が効果的。

指導のポイント 第4問B型の練習は *Departure* の「スキニング」を用いると、大意を聴き取る力をつけさせることができる。

(こもり きよひさ・河合塾講師)

Genius English Readings Revised

高度なリーディングスキルの養成

境 倫代



■2008年度センター試験を振り返って

2008年度大学入試センター試験での英語の出題に関して、傾向が変わったという声をよく聞く。図表を伴う問題や内容理解を求める問題などは従来から出題されていたが、今回はそれらに加えて、パラグラフのメイン・アイデアを問う問題、広告文・絵・図形・4コマ漫画などから必要な情報を読み取る問題など、単に字面を追って読んでいくだけでは対応できない問題が多く出題された。まさにリーディングスキルの必要性が鮮明に打ち出された出題傾向であるといえる。速読力に加えて、今後いっそうリーディングスキルの養成が授業の中で求められると考えられる。そんな要求に答えるかのように *Genius English Readings Revised* では Active Reading というコーナーを設けてリーディングスキルの習得を目指している。ここでは、パラグラフリーディングに絞ってどのような授業案が可能かを考えてみたい。

■授業実践例（パラグラフリーディングの場合）

パラグラフのメイン・アイデアをつかむことがパラグラフリーディングの主たる目的といえる。その目標を達成するためには、あらかじめパラグラフの構成を理解させ、その後に具体的なスキルを紹介したほうが効果的であろう。その上で、実際の教材に取り組みせ練習させるという手順をとることにする。具体的な手順は以下の通りである。

A. パラグラフの構成

以下の3点について説明し、その中で1パラグラフの構成が文章全体の構成にも当てはまること

に気付かせ、最終的には文章全体のメイン・アイデアの把握に到達することを目標とする。

① 1つのパラグラフに1つのメイン・アイデア

② パラグラフの3つの要素

- ・ 主題文 (Topic Sentence)
- ・ 支持文 (Supporting Sentences)
- ・ 結論 (Conclusion)

③ 文章全体はパラグラフ単位で、「主題」→「支持・説明」→「結論」という構成となる。

B. スキルの提示

次に以下の具体的な指示を与える。

① パラグラフの最初と最後の文に注目。

② キーワードを探す。何回も出てくる語に注目。

③ 筆者の意見を表すような言い回しを探す。

C. 教材を用いた Exercises

教科書本文を用いた指導例として、以下のようなのが考えられる。

(*Readings Revised*, Lesson 6 より)

Proverbs and sayings in many languages express the view that women are always talking:

Women's tongues are like lamb's tails — they are never still. — English

The North Sea will sooner be found wanting in water than a woman at a loss for words.

— Jutlandic

The women with active hands and feet, marry her, but the woman with overactive mouth, leave her alone. — Maori

When three women get together, they always prattle. — Japanese

Despite the widespread belief that women

talk more than men, most of the available evidence suggests just the opposite. When women and men are together, it is the men who talk more. Two Canadian researchers, Deborah James and Janice Drakich, reviewed 63 studies which examined the amount of talking by American women and men in different contexts. Women talked more than men in only two studies.

In New Zealand, too, research suggests that men generally dominate the talking time. Margaret Franken compared the amount of talk used by a female and a male “expert” assisting a female TV host to interview well-known public figures. In situations where each of the three was entitled to a third of the talking time, the man took more than half on every occasion.

So we may conclude that the stereotype of the talkative woman reflects sexist prejudice rather than objective reality.

Para.1

- ①Main idea を日本語で答えなさい。
- ②Main idea を支持するものとして提示されているのは4つの [格言]。

Para.2

- ①Topic sentence を抜き出さない。
- ②63の調査例のうち女性が男性より多く発話した件数は [2] 件。

Para.3

- ①Main idea を日本語で答えなさい。
- ②ニュージーランドの研究では、男性1人女性2人の中で男性が時間全体の [半分] 以上話した。

Para.4

- ①このパラグラフが全体のまとめであることを示す言葉は [conclude]。
- ②まとめの内容を日本語で答えなさい。

Para.1~Para.4

パラグラフ単位の構成を完成しなさい。

1 [問題提起]

→ 2 [主題] と [支持・説明1]

→ 3 [支持・説明2] → 4 [結論]

D. 具体的な生徒への指導

できるだけ、Bで提示したスキルの原則に基づいて答えを出すように促す。そのためにはメイン・アイデアは主題文に含まれる可能性が高く、主題文は文の最初に提示される場合が多いということを押さえておく。これに基づくと、*Para.1* ~ *Para.3* の問①は第1文を抜き出すかあるいは日本語に直せばよいことになる。問②については、メイン・アイデアの根拠・説明に関する問であるので、第2文以降の中から答えを探すように指示する。*Para.4* ではまさに結論を明示する *conclude* という語に注目させる。そうすれば自ずとそれに続く *that* 節内がまとめの内容とわかる。全体の構成を問う問題では、*Para.1* が「問題提起」として機能し、「主題」と「支持・説明1」が *Para.2* に混在した形となっていることに気づかせる。この場合、冒頭の段落が「主題」とはならない点に注意させる。*Para.4* は *conclude* という動詞から「結論」の段落であるとわからせる。

以上がパラグラフフリーディングの授業例である。いうまでもないが、A、Bで示したパラグラフの構造やスキルの原則に当てはまりやすい教材の選択が重要である。

* * *

このように、速読、精読にとどまらず、パラグラフフリーディングの教材としても *Genius English Readings Revised* は有効である。さらに、他のスキルのトレーニングも決して不可能ではない。*Genius* は論説文を多く含んでいるので、スキニングのトレーニング教材としても機能する。もちろん新聞、広告、時刻表などを使えばさらに実践的な授業展開が期待できるが、*Genius* にはその点への配慮も忘れてはいない。

(さかい みちよ・京都教育大学附属高等学校)

Genius English Readings Revised

身近にある「異文化」を考える

伊東さゆり



『大辞林』によると、「異文化」とは、「価値観や言語、習慣や行動様式など、自分が親しんでいる文化とは規範、営みの異なる文化」とある。英語の教科書においても、多くの国や地域の暮らし・文化が紹介されている。しかし、少し拡大解釈して「自分が親しんでいる生活様式とは異なった文化」と考えれば、「異文化」が海の外の文化だけを意味するのではなく、もっと身近に存在していることに気づく。その一例が *Genius English Readings Revised* の Lesson 3 “Let’s Be Proud” である。障害を持つ人々の社会的自立を目指した NPO を主宰する竹中ナミ氏の活動が紹介されている。

多くの生徒にとって、障害者の生活を知る機会には乏しく、竹中氏の生き方、考え方を読むことは「異文化」との出会い、と考えても良いのかもしれない。このレッスンは改訂前の旧版にも掲載されており、これまで前任校の千葉女子高等学校での授業で様々な活動を展開することができた。そのうちの3点を、実際に使用したワークシートの例とともに紹介する。

■ Picture Description

テキストを読ませる前に、Warm upとして、写真から得られる情報を述べさせる。このレッスンには4枚の写真が用意されているので、4名一組のグループ活動が可能である。ワークシート例①を参照（ページ、行番号は *Genius English Readings Revised* による。以下同様）。

この活動を通して、生徒は未知なる世界（＝

【ワークシート例①】（Lesson 3 導入時）

(1) Picture Description

① Look at the pictures on pages 30, 31, 32, and 35. Choose one and give as much information as possible.

(Key expressions only!)

② Tell your group about the picture you’ve chosen. While listening, you have to keep your textbook closed.

「異文化」への扉を開く。自分が担当する写真以外は写真を見ず、グループのメンバーが説明する情報を聞いてレッスンの主題をつかみ始める（「障害者の話らしいね。」。これがテキストを読む興味・関心につながっていく（「何が書いてあるのだろうか？」「自分が説明した写真とテキストの関係は？」）。

■ Reading in Detail

ワークシートには、読んだことに対する理解を深めるために、自分の考えを表現する活動を常に設けている。Section 1 においては、次の活動をペア、またはグループで展開することができる。次ページにワークシート例②を挙げる（下線部は教科書からの抜粋部分。以下同様）。

日本語における障害者を表す表現と、その背景にある態度を話し合わせる活動。生徒は、日本語には positive な語がほとんどないことを確認することにより、竹中氏が日本語にある語ではなく、“challenged” という語と “its positive way of thinking” を英語から「輸入」して使うように

【ワークシート例②】(Section 1)

(2) Reading in Detail
p. 31 ll.5-7
The word “challenged” was coined in the United States to refer to people with disabilities. I imported the term “challenged” as well as its positive way of thinking.

→ What words do we have in Japanese for people with disabilities? What attitudes do you think the words show toward them?

Japanese words for the disabled	Attitudes toward them
①	①
②	②

なった理由や心情を理解し、自分の考えを発表する活動に発展させていくことができた。

■Group Discussion

これまで読んできた内容を理解した上で、社会的側面から自分のアイディアを提示する必要がある活動。右上にワークシート例③を挙げる。

(1)において、障害を持つ人々が暮らしやすい社会の条件を考えさせる。(2)においては、できるだけ多くのアイディアを提示させる。

生徒は自分が実際にできること、社会に働きかけたいことを次々と発言し、互いに良い点や問題点を指摘し合うこともできた。

また、次の2点を述べていたグループが多かったことは特徴的である。

- ① If something is made user-friendly for the challenged, then it will be easier for everybody.
② Every challenged person is a member of our society. We have to know, understand and help each other.

Group Discussionの結果、「障害を持つ人々と私達は同じ社会を生きる仲間である。彼らにとっての問題は私達の問題でもあるのだから、互いを知り、協力してより良い社会にしていこう。」と

【ワークシート例③】(Section 2 終了時)

p. 33 ll.3-5
In the United States, many physically-challenged people participate in society, support themselves economically, and maintain their self-esteem.

●Group Discussion
Topic: What could we do to make Japanese society a better place for the challenged to live in?

(1) Preparation:
Think about the situation in Japan. What do you think should be provided to help the challenged? Give as many examples as possible.

Where	What we could do
At work	(e.g.)introduce new technology
At school	
At home	

(2) Share the above ideas with your group.

いう結論に達した。障害を持つ人々と共に生きる意識の高まりを感じた discussion であった。

* * *

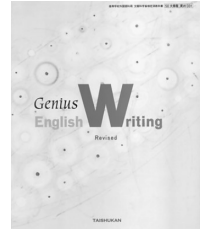
■“Let’s Be Proud” から広がった学び

このレッスンの指導中に、嬉しい驚きがあった。竹中氏が主宰する NPO の Prop Station に授業での取り組みをお知らせし、竹中氏から直接メールを頂戴した生徒がいたことである。授業での活動や取り組みを応援してくださった竹中氏からのメッセージを、学年全体の生徒が学習をする上で、また、教員が指導をする上で大きな励みにさせていただいたことを、この場をお借りして感謝申し上げたい。教員には思いもつかない生徒の勇気と行動力に脱帽し、自立・自律した学習の意味を再確認した次第である。未知なる世界に関心を持ち、テキストを読んで情報を吸収し、共生のための意見交換を積極的に行う生徒の中に、「異文化理解」のプロセスを実感したレッスンであった。

(いとう さゆり・千葉市立千葉高等学校教諭)

Genius English Writing Revised

自由英作文の指導法



編集部

近年、大学入試問題では発信型が重視されるようになり、その結果、英作文、特に自由英作文の形式で、自分の意見や考えなどを英語で表現することを求められる出題が増えてきました。本稿では、自由英作文の出題形式を概観しながら、*Genius English Writing Revised* を用いたライティングの指導についてご紹介したいと思います。

ここでは、自由作文問題を①「自分の意見を述べる」、②「場面に応じた英文を書く」、③「物語る」の3つに分類して、それぞれについて詳しく見ていきたいと思います。

■「自分の意見を述べる」

「以下のトピックについて、あなたの意見を英語で述べなさい」、「～について賛成・反対のいずれかの立場から、…語程度の英語で述べなさい」などのように、何らかのテーマや情報が与えられ、それについて自分の意見を論理的に述べるという形式で、大学入学後は論理的思考を要求されるからか、自由英作文の出題ではポピュラーだと言えるかもしれません。その一方で、論理的な文章というのは、生徒にとって、日本語で書くのも決してやさしいことではないので、難しい部類の英作文であるとも言えます。実際の大学入試を見ると、例えば、2006年の慶応義塾大学経済学部では、架空のアジアの港町で起きた自然災害への対策案の選択肢として3つの案が提示され、「あなたがどの案を支持するかを英文で論理的に述べなさい。」と問題を課しています。

Genius English Writing Revised では Unit 4

“Give Your Opinion” で議論などの活動を通して、論理的思考力を養う訓練をします。具体的には携帯電話の是非、自然環境、女性の労働環境などが扱われています。

この形式の問題に取り組む場合、生徒にとってより取り組みやすいと思われるのは「賛成か反対」の議論だと思われます。どちらかの立場に立ち、その理由を述べるという訓練を通して、「主張→理由→結論」の流れを生徒の頭の中で定着させます。慣れてきたら、「～についてどう思うか」などの抽象的な題について、具体的に意見を述べるという形式にするのもいいでしょう。

よく、小論文で、「いきなり原稿用紙に書き始めるのではなく、メモを取りましょう」と指導されることがありますが、英語でも同じことが言えます。シートなどを用意すると、生徒も論理的に思考する筋道が見えやすくなります。

■「場面に応じた英文を書く」

実用的な観点から、ある場面を設定して、手紙やメールを英語で書くといった自由英作文もよく見られます。例えば、2006年の広島大学（前期）では、ある新しい携帯型パソコンを、5つの特徴に基づいて友達に勧める手紙を英語で書くという問題があります。

このような形式の出題でポピュラーなのは、「日本のことを知らない外国人に日本のことについて説明する」というパターンです。例えば、2006年九州大学（前期）の「自分の経験に基づいて正月について説明する」という問題、2007年金

沢大学（前期）の『『成人の日』を誤解している外国人に『成人の日』とは何かについて説明したメールを送る』という問題などがありました。

Genius English Writing Revised の Part 2 の Unit 3 “Explain How Things are in Japan” では、「日本について語る」ことをテーマとして、日本を英語で表現する力を養成することが指導目標の1つとされています。特に日本のものを英語で表現する時は、「りんご=apple」のように1語どうしが対応していないことが普通ですので、説明的な表現をすることが求められます。単語を覚えることに生徒の注意を向けすぎないほうがよいでしょう。

例えば、このユニットの Lesson 7 では「こたつ」が紹介されていますが、まず、「こたつを英単語1語でいうと何ですか？」と問い、そこで中学校で学習する“table”という語を生徒から引き出します。すると、まずは“A kotatsu is a table.”という英文を作ることができます。その後で、「ではこたつはどういう特徴がありますか？」とさらに問います。すると「(下が) あたたかい」、「布がかぶさっている」などなど生徒から引き出すことができるでしょう。それらを英語で表現し、先ほどの文に肉付けしていきます。

この流れですと、生徒も一緒に考えることができ、授業への積極性が増します。*Genius English Writing Revised* では“A kotatsu today is a low table with an electric heater underneath, covered with a quilt.”と説明していますが、この英文を和訳し、覚えさせるだけでは応用力も付きませんし、生徒も興味がわかないかもしれません。前述のような活動を通して、英語で物事を表現する楽しさを実感できる授業が可能になります。

■「物語る」

「場面に応じた英文を書く」と重なるところもありますが、「物語る」は自分の体験談などについて英語で表現する形式です。例えば、2007年静

岡大学（前期）の「あなたが会った最も印象的な先生」について英語で書くという出題がそれです。生徒の立場からすると、論理的な英文を書くよりは、やりやすく感じるはずですので、自由英作文を初めて書くような生徒には、このような「物語る」が適していると言えるでしょう。

「物語る」の場合、とにかく表現力が要求されるので、語彙力などを日頃からつけていくことはもちろん重要ですが、文章の流れにメリハリをつけるために、パラグラフを意識することを心がけるように注意を向けさせると、まとまりのない作文になることを防げます。語数の少ない作文では、段落を作るのが難しいかもしれませんが、その場合でも意味の区切れとして、どこからが導入か、どこからが展開かなどの意識を持たせたいものです。

Genius English Writing Revised の Part 2 の Lesson 6 では、休暇旅行のひどい体験が扱われています。似たような経験を生徒に書かせる時、書くネタに困ってペンを止まっている生徒を見かけたら、ある程度は創作をすることも提案していると思います。あまり事実を書くことばかりに注意を向けていては、「英語を書くことを楽しむ」という本来の目的から逸れてしまいます。また、特に本番の試験では、事実を書くことをあまりにも気にしすぎて、何も書けなくなることは避けたいものです。奨励するとまでは言わないまでも、自由英作文では、ある程度の柔軟性を持って書くことを心がけさせることは重要だと言えるかもしれません。

* * *

もう一点、英文を書く上で注意したいのは、同じ英語表現を繰り返し使わないことです。Part 2 の In Function では「計画を述べる」、「怒りを示す」など場面別に英語表現が紹介されています。生徒の作文が単調なスタイルにならないよう、注意を促すとより磨きがかかると思います。

大修館書店の指導資料・副教材のご案内

■教科書準拠指導資料・副教材

◎は生徒用副教材／定価＝本体価格＋税５％

教材名	判型	定価(税込)
■Genius English Course I・II Revised [英 I 046] [英 II 049]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual／<Q&A 方式>教科書情報資料集／評価問題集／Teacher's Book／指導用 CD-ROM)	B 5 判	15,750円
指導用パワーポイント CD-ROM		7,350円
指導用音声 CD (I・4 枚組／II・5 枚組)		I・12,600円 II・13,650円
◎予習ノート	B 5 判	500円
◎ワークブック Standard	B 5 判	500円
◎ワークブック Advanced ー 大学入試対策編 (CD 付)	B 5 判	980円
◎生徒用音声 CD (I・1 枚／II・2 枚)		I・1,050円 II・1,575円
■Captain English Course I・II Revised [英 I 047] [英 II 050]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual／言語活動集／評価問題集／Teacher's Book／指導用 CD-ROM)	B 5 判	14,700円
指導用音声 CD (3 枚組)		12,600円
◎学習ノート	B 5 判	500円
◎生徒用音声 CD		1,050円
◎単語・文法練習シート	B 5 判	
■Departure Oral Communication I Revised Edition [オ I 026]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual／言語活動集／評価問題集／Listening Challenge 補充問題集／Teacher's Book／指導用 CD-ROM)	B 5 判	16,800円
指導用音声 CD (6 枚組)		14,700円
◎学習ノート	B 5 判	500円
◎生徒用音声 CD (1 枚組)		1,050円
■Genius English Readings Revised [英R 031]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual／評価問題集／Teacher's Book／指導用 CD-ROM)	B 5 判	15,750円
指導用音声 CD (4 枚組)		12,600円
◎ワークブック Standard	B 5 判	500円
◎ワークブック Advanced	B 5 判	500円
■Genius English Writing Revised [英W 031]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual／評価問題集／ディクテーションカード集／指導用 CD-ROM)	B 5 判	15,750円
指導用音声 CD (3 枚組)		12,600円
◎ワークブック	B 5 判	500円

* ご採用見本をご希望の場合は、大修館出版販売本社（電話：03-3934-5110[代]）までご請求ください。

■副教材（価格は税込み定価）

○Genius English Grammar（岡田伸夫編著・A5判・600円）

○Genius English Grammar Teacher's Manual（B5判・2,600円）

文法事項の定着をはかり、さらに大学入試レベルまでをカバーしています。指導用 Teacher's Manual では、補足例文、授業で使える小テスト用補充問題もご用意しました。

○カラーワイド英語百科—The English Odyssey—（大谷泰照・堀内克明監修・B5判・900円）

英米文化の常識から環境問題まで、英語を学ぶ際に知っておきたい背景的知识です。手紙の書き方や語源など、「英語」にまつわる知識も満載。

○新版 ジーニアス英単語2200（B6判・1050円）

多様化した最近の大学入試の分析を踏まえ、合格するために必要な単語を選定し、そのすべてに例文を付した最強の単語集。

○ジーニアス英単語 Step 38（B6判・1050円）

大学入試と高等学校英語教科書での出現頻度から、名詞、動詞、形容詞・副詞の3つのカテゴリーを、それぞれ Step 1～Step 38 に分けて配列。動詞のみならず形容詞、副詞にも例文を付しています。発音・アクセント問題頻出単語はコラムとして収録。会話文対策も万全。

○ジーニアス英熟語1000 改訂版（新書判・1050円）

試験で「どう出題されるのか？」にこだわり、中学～入試レベルの英熟語を収録しました。

■英語教科書サイト

GCD English Teachers' room

- ・各教科書の「シラバス」「観点別評価規準例」（ダウンロード可能）
 - ・教材リンク集
 - ・大学入試問題（Departure OC I, Genius English Writing）
 - ・学会・催し情報
 - ・『GCD 英語通信』バックナンバー
- などをご紹介します。
- （毎月15日頃更新）

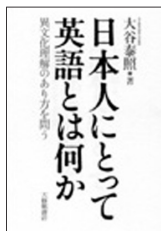


URL : <http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

日本人にとって英語とは何か ——異文化理解のあり方を問う

大谷泰照 著

大津由紀雄
(慶應義塾大学教授)



中高の先生がたが教科指導や生活指導などで寸暇を惜しんで日々を送っておられることは十分承知しているつもりである。それでも、英語教育関連の講演の折に、『『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想／行動計画』を読んだことがあるかたの挙手を求めると、よくて2割、悪いと1割に満たない現実を前にすると、もうひと踏ん張りしていただきたいという思いを禁じ得ない。

言語教育政策研究の第一人者による本書は通り一遍の英語教育史では味わうことのできない珠玉のことで満ちあふれている。「特に日本人学生の言語に対する姿勢は、政治や経済の動きにつれて、実に敏感に変化していることがよく分かる」(p. 83) という分析、英語教員の本来の役割は「単に英語という特定の言語だけでなく、ひいては異質の言語・文化一般に対してわれわれの目を見開かせることにも通じるはずである」(p. 100) という洞察、異言語教育の立場からみれば、「おそらく、いま本当に問われているのは、異言語の単なる運用技能や目先の実用効果よりも、むしろその教育に対する基本的な姿勢そのものであるといわなければならない」(p. 141) という主張、いま異文化理解にとって必要なのは、「文化の序列志向に導きやすい『比較文化』的発想よりも、むしろ個別文化の固有の価値に着目する『対比文化』的発想であるように思われる」という指摘 (p. 179)、学校英語教育は『『国際語としての英語』教育という聞こえのよい一枚看板を下ろすべきではないか。そして、『日本語から最も遠く隔たった言語の1つとしての英語』教育として、とらえ直される必要があらう」(p. 193) という提案、等々。一度読み始めると、読者の気持ちを

とらえて離さない。

こうした根源的な問題の他にも、近年しばしば話題にのぼる TOEFL における日本人のスコアの低さをどのように解釈すべきなのか (第1章〈2〉) のような、現実の問題に直結する洞察も本書のいたるところにちりばめられている。

本書には長年にわたる著者の研究の精髓が異文化理解という視点から凝縮されていて読み応えがある。先生がたには、忙中の閑を見つけて、ぜひ本書を手にとっていただきたい。

現実には流されることなく、日本人が英語とどう対峙すべきかを考え、英語教育という営みの本質を探るための必読書である。

英語類義動詞の構文事典

小野経男 著

杉岡洋子
(慶應義塾大学教授)



英語を話したり書いたりできるようになるには、動詞の適切な使い方の習得が肝要である。これは英語を教える者として常に痛感していることだが、いざその方法となると容易ではない。説明や用例が豊富な学習者用辞書でも、どの動詞をどういう文型で使えばいいかを見つけれない場合もあるし、類義語辞典 (Thesaurus) で適切な動詞を探そうとしても、類義語同士の意味や文型の違いまで説明してあるわけではない。

そこで本書は、よく使われる動詞を「取得」「発話」「作成」「位置」「認識」「思考」といった22のグループにまとめ、それぞれ5つ程度の類義語動詞を挙げ、その用法と意味の違い、代表的文型の例文と説明、基本文型を変化させた構文を示したものである。読者は、あらわしたい内容に応じて適切な動詞を選べるだけでなく、それを文脈に沿って正しい文型で使うために必

要な情報を、ふんだんに得ることができる。

例えば、発話関係(1) (8.1) では、「連語関係の差」で、that 節 と wh 節 (say, tell), 二重目的語 (tell), 不定詞句 (say), 名詞句+不定詞句 (tell), 名詞句+前置詞/副詞 (talk [into /out of], tell [apart /from /off]) など、可能な文型の違いが示される。「意味の概略相違表」からは、tell, say が「命令」, talk, speak が「説得」, talk, tell が「相談/会談」, tell が「理解」を他の類義語に比べて強くあらわす、といった細かな意味の違いがわかる。これら類義語同士の共通点と相違点は、一覧表で全体像をつかみやすくなっている。その上で、後続要素 (文型) ごとに動詞の用例 (日本語訳付き) が解説される。ここでは、どういう目的語を取りやすいか (talk と speak では後者の方が大規模な相手に使うなど)、前置詞句を含む成句 (talk someone into, speak out など) についても、それぞれに豊富な用例と解説があり、アメリカ・イギリス英語の違いも教示してくれる。さらに、各章の後半では、受動態、2重目的語、結果叙述、主語や目的語の交替など、基本文型からの変化の可能性における類義語同士の違いがその具体例と共に解説されている。

本書は、単に「通じる英語」よりワンランク上の、正しく適切な英文を書いたり話したりするために最適なガイドブックとして、英語の教育者と学習者に広く勧められる。また、英語の動詞が作り出す構文の豊かさと文法の規則性を知る上で、英語研究に興味をもつ読者にとっても非常に有益な事典である。

改訂新版 通訳教本 英語通訳への道

日本通訳協会 編

阿部一

(阿部一英語総合研究所)



「通訳」ということばはいつの世でも多くの人を魅

了する。現在も本格的なグローバル時代に突入して、優秀な通訳者のニーズは引きもきらないし、子どもたちの将来なつてみたい職業のひとつにあげられることも多い。

本書はそういった通訳の世界や現場、通訳の種類、通訳になるための基礎的な知識と練習、そして通訳技術の本格的な訓練の実際などを具体的に包括的に扱った総合的な案内書で、これまでに出た類書の中でもそのカバーしている領域の広さと、理論的な裏打ちや具体的な訓練や練習法などの体系化からすれば、明らかに決定版のひとつといえよう。

元々、本書は1976年に刊行されロングセラーとなっていた『英語通訳への道』の全面改訂版であり、各方面から新時代を迎えての改訂版、新訂版が切望されていたものである。何せ通訳という極めて専門性の高い分野なのでそんなに多くの類書があるわけでもなく、そんな中でも本書の旧版は貴重な存在であった。

本書は全面改訂で新しい専門分野の知見や最近の実証研究の成果なども多く取り込んでの解説書であり、個人でも本文の解説と付属のCDをうまく使えば1人でも簡単な練習などは行なえるようになっている。

興味深いことは本書で取り上げられているような通訳のオーソドックスな訓練法のいくつかは、シャドーイングを典型として、けっこう中学校や高校などの英語教育の現場で導入されそれなりの効果をあげているという事実である。そして、学校の教育現場で、一言、生徒たちに「この練習法は通訳の人たちも基本練習として必ずやっているんだよ」と付け加えてあげると、彼らの目が輝き出して真剣に練習するのである。

今後は、本書に出ているような通訳の技術訓練や心構えの指導に加えて、通訳者として身につけておかななくてはいけない最低限の歴史、社会、人名、地名などのミニマム・コモンエッセンシャルズ (明示的に出しにくいだけにやっかいである) の構築と整備をしていく必要があるかもしれない。

本書の「はじめに」で代表著者の向鎌治郎氏は「ことばの通訳」は「ことばだけの通訳」ではないと述べられているが、味わい深いことばであり、まさにそこにこそ一流通訳者になるための大きな鍵が隠されているといえよう。

大修館書店の本

Books from Taishukan

◆最近の大学入試の分析を踏まえた最強の単語集。

新版 ジーニアス英単語2200

ジーニアス英単語・英熟語編集委員会＝編
(B6判・488ページ・定価1050円)

◆必須単語を38のステップに分けて掲載。会話文対策も万全。

ジーニアス英単語 Step38

ジーニアス英単語・英熟語編集委員会＝編
(B6判・336ページ・定価1050円)

◆メディアの革新は情報・社会・人間関係をどう変えるか。

メディア・コミュニケーション学

橋元良明＝編著
(A5判・256頁・定価1890円)

◆微妙な意味の違いを理解し、意味の核心をつかむ。

入門講座 英語の意味とニュアンス

吉川洋・友繁義典＝著
(A5判・192頁・定価1470円) (定価＝本体価格＋税5%)

◆営業便り◆

▶新学期を迎え、先生方におかれましてはお忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。今年も多く先生方に弊社発行の学習辞典をご推薦いただきました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

▶この春弊社は、新刊として『新版ジーニアス英単語2200』(定価1050円)と『ジーニアス英単語 Step38』(定価1050円)を発刊致しました。『新版ジーニアス英単語2200』はセンター試験から最難関大学までをカバーした語彙・語法問題対策の決定版とも言える新しい単語集です。また別売の準拠CD 4枚組(定価2625円)もございます。『ジーニアス英単語 Step38』は中学校の復習から高校基本単語に加え、センター試験と大学入学問題の語彙・語法問題を38のステップに区分けた例文で覚える画期的な英単語集です。こちらにも別売の準拠CD 3枚組(定価2310円)をご用意いたしております。また、それぞれ準拠のテスト問題作成ソフトがございます。

▶新入生をはじめ、在校生の皆さんにもぜひご推薦、ご採択のほどお願い申し上げます。

◆編集後記◆

▶語学において「技能」と言われると、まず「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つが思いつくかもしれません。『英語教育』誌(3月号・4月号)でも最近取り上げていますが、第5の技能として「異文化理解力」が英語の技能としてとらえられることも近年は多くなりました。

▶「異文化理解」ではよくステレオタイプが問題視されます。確かに「～人は…だ」と決め付けるのは問題ですが、「全ての～人が…だとは限らない」という認識があれば、ステレオタイプはむしろ文化を異にする人々との話題の切り口として有効だともいえます。例えば、「～人は…だ」とよく言われますが、本当でしょうか」という聞き方ならば、相手も気分を害することなく、「いえ、実際は違いますよ」などと答えてくれて、話も弾んでくるかもしれません。

▶「異文化理解」に限らず、「決め付け」で物事を見ることは、誤解につながる恐れもあります。一方的な報道にあまり振り回されることなく、いわゆる「情報リテラシー」を培っていくことが、「決め付け」を回避する重要な要素なのかもしれません。(内)



お知らせ



『G.C.D.英語通信』は先生方と小社英語編集部との意見・情報交換の場です。小社英語教科書についてのご質問、お使いいただいた感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「GCD教科書 Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また、小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿をお待ちしております。ご投稿は郵便でお送りください。採用分には薄謝をお送りいたします。(採用・不採用にかかわらず原稿はお返ししません。)

なお、小社ホームページ「燕館」には別館「GCD English Teacher's Room」を設け、小社教科書の内容をご案内しているほか、英語の先生方に役立つ様々な情報を提供しております。小誌のバックナンバーもご覧いただけます。ぜひご活用ください。

<http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

Genius・Captain・Departure

英語通信

第43号

2008年4月25日発行

(年2回発行)

[出版情報] <http://www.taishukan.co.jp>

編集人 ©「G.C.D. 英語通信」編集部

発行人 鈴木一行

発行所 株式会社 大修館書店

101-8466 東京都千代田区神田錦町 3-24

Tel. (03)3294-2357(編集部) / (03)3295-6231(販売部)

振替 00190-7-40504 印刷・製本 文唱堂印刷株式会社